中学校学習指導要領解説　　特別活動編抜粋

学級活動（３）「一人一人のキャリア形成と自己実現」の具体的な内容(pp.59-62)

ア　社会生活，職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

現在及び将来の学習と自己実現のつながりを考えたり，自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら，学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て，振り返ること。

この内容は，学校における個々の学習が，それぞれのキャリア形成にどのようにつながっていくのかということや，なぜ学ぶのかといった学ぶことの本質的な意義に気付き，個々の生徒の学習意欲が高まり，主体的に学習が進められるようにするものである。

その際，生徒が自分にふさわしい学習方法を見いだしたり，学習に意欲をもって主体的に取り組んだりする上で，自主的な学習を深める場としての学校図書館等を積極的に活用する態度を養うことも，「学び」の方法を身に付ける上で大切である。

この内容において育成を目指す資質・能力としては，例えば，現在の学習が将来の社会・職業生活の基盤になることや，他者との関わりを通して自己の将来に関する考えを深めることの大切さを理解し，自己を見つめ，これまでの活動を振り返りながら主体的に新たな学習に取り組むことができるようになることが考えられる。また，そうした過程を通して，自己実現を目指した努力と改善を積み重ね，生涯にわたって学び続けようとする態度を育てることなどが考えられる。

そのためには，学級経営の充実を図り，学習活動の基盤としての学級における学習環境を整え，生徒の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導を充実し，生徒が自他の個性を尊重しつつ，互いに高め合うような学級づくりを進めていくことが重要である。

具体的な活動の工夫としては，充実した人生と学習，学ぶことや働くことの楽しさと価値，学ぶことと職業などについての題材を設定し，保護者や卒業生など自分の身の回りの人，地域の職業人などの体験談などを取り入れながら，自分なりの考えをまとめ，発表したり，互いに話し合ったりすることなどが考えられる。

また，学習意欲と学習習慣，自ら学ぶ意義や方法などについて題材を設定するとともに，小学校から現在までのキャリア教育に関わる諸活動について，学びの過程を記述し振り返ることができるポートフォリオの作成と活用を通して，自身の成長や変容を自己評価したり，将来の社会生活や職業生活を展望したりする活動が求められる。学校図書館等を活用して学習を振り返り，自主的な学習を深め，

多様な情報を収集して進路選択や自己実現につなぐ場としての意義や役割に気付き，積極的に活用する態度を養うことも大切である。

これらの指導は，各教科等の学習と関連して指導したり，内容によって司書教諭や，学校図書館司書，学校図書館やICT に関わるボランティアなどの協力を得て，実際に学校図書館の仕組みの理解や利用の仕方に関する実践的な活動を行ったりするなど，小学校までの経験を生かしつつ，中学生にふさわしく指導に具体性と変化をもたせることが望ましい。

イ　社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成

社会の一員としての自覚や責任をもち，社会生活を営む上で必要なマナーやルール，働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること。

この内容は，勤労観・職業観を育み，集団や社会の形成者として，社会生活におけるルールやマナーについて考え，日常の生活や自己の在り方を主体的に改善しようとしたり，将来を思い描き，自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考え，選択しようとしたりすることができるようにするものである。今日の我が国の若者の勤労観・職業観の未成熟さが指摘されていることから，社会参画意識や勤労観・職業観の醸成に関わる指導は，重要な役割を担うものと考える。

この内容において育成を目指す資質・能力としては，例えば，他者と協力し合いながら，自らの能力や適性を生かして仕事や役割を担うことが社会づくりにつながることなど，勤労や職業について理解を深め，勤労や職業と自己実現との関係について考え，自分なりの勤労観・職業観を醸成していくことができるようになること。また，こうした過程を通して，社会の形成者として，自らを生かした責任ある行動を取り，社会生活における課題の改善に向けて貢献しようとする態度を養うことなどが考えられる。

そのためには，様々な役割や職業がどのように社会を支えているのかに気付くとともに，集団や社会での役割を果たすことやその過程で能力を適正に生かすことの意義について実感することが大切である。

具体的な活動の工夫としては，自分の役割と生きがい，働く目的と意義，身近な職業と職業選択などの題材を設定し，調査やインタビューを基に話し合ったり，発表やディベートを行ったりなどの活動などが考えられる。また，学校行事として実施する職場体験活動，介護体験，あるいは職業人や福祉団体関係者を招いての講話等との関連を図りながら，それらの事前，事後の指導として，調査や体験の振り返りをもとに話し合い，感想文の作成，発表などの活動の展開も考えられる。その際には，働くことを通じて，適性や能力がどのように発揮され，社会における自分をどのように評価するのかといった自己有用感や自己肯定感などについて理解できるようにすることが重要である。

ウ　主体的な進路の選択と将来設計

目標をもって，生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し，自己の個性や興味・関心と照らして考えること。

この内容は，生き方や進路に関する各種の情報を収集して活用するとともに，自分自身の興味・関心などの個性を理解した上で，自分の将来の生き方や生活について見通しをもち，進路選択を行うものである。ここでいう進路の選択や将来設計は，中学校卒業後の就職や進学について意思決定することがゴールではない。中学校卒業後も，様々なことを学んだり，職業経験を積んだりしながら，自分自身の生き方や生活をよりよくするため，常に将来設計を描き直したり，目標を段階的に修正して，自己実現に向けて努力していくことができるようにすることが大切である。

ここで育成を目指す資質・能力としては，例えば，中学校卒業後の進路や社会生活に関する幅広い情報を理解し，自分を見つめ，目指すべき自己の将来像を描くことができるようになることが考えられる。また，そうした過程を通して，生涯にわたって段階的な目標の達成と，自らの社会的・職業的自立に向けて努力しようとする態度を育てることなどが考えられる。

具体的な活動の工夫としては，高等学校などの進路に関する情報だけでなく，職業や働き方，生き方に関する情報などを活用する活動や，自分の夢や希望，人生と生きがい，将来設計などについての題材を設定し，自分の将来を見通すことが考えられる。夢や希望を描くことが難しい生徒への配慮も求められる。また，地域の職業人や福祉団体関係者の講話や感想文等を活用した展開や，体験に基づく発表，話合いなども考えられる。

将来の生活における職業人，家庭人，地域社会の形成者などとしての役割や活動を知り，生徒が将来の生活を具体的に描き，進路計画として立案する必要がある。目指すべき自己の将来像を暫定的に描くには，生き方や進路に関する情報を収集して活用するとともに，これまでや現在の自分を振り返り，自己の興味・関心や適性を把握することが必要である。

そのためには，進路計画の実現を目指して，生徒が卒業後の進路選択の問題を，自分自身の課題として受け止め，自ら解決するために，何を知り，どのように考え，いかに行動すべきかなどについて検討することが大切である。自らの興味・関心や適性などを生かすには，特定の職業や生き方に限定されないように，選択の幅を広げることが大切であり，将来の目標となる夢や希望とのつながりを見通すことも重要である。

なお，生徒の進路選択に関わる今日的な環境の変化が一層進んでいる。経済環境の変動に伴う産業構造・就業構造の変化に加えて，正規雇用以外の雇用形態が多様化し，長期雇用や年功序列あるいは学歴による処遇といった企業の雇用慣行

等が変化する中で，人はその人生において，進学・就職を含めて何回ものキャリアの選択を迫られるようになっており，キャリアを自ら形づくっていく時代を迎えていると言えることから，将来の生き方や生活につながる主体的な進路の選択を実現する資質・能力の育成が一層重要となる。

また，進路選択に関しては，生徒の家庭の経済状況などで進学を断念することのないよう，奨学金等の制度について正しく理解した上で積極的に活用できるよう必要な助言を行うことも大切である。